

資料

最近10年間に実施した
害虫獣等の検査結果

稲田貴嗣, 竹田 茂

Examination of Noxious
Arthropods and Vertebrates
for the Last Ten Years

Takatsugu INADA and Shigeru TAKEDA

私たちが生活している周りには様々な生物が生息しており、日本では昆虫綱だけでも約29000種が報告されている。それらの中には人や住宅に重大な害を与える生物がいる。また、近年では直接人体に害はないが、不快感を与える虫（不快害虫）が問題になることも多い。そのような虫やネズミ（糞を含む）などが食品中や屋内・庭などの住環境中から見つかったとき、県民（事業所を含む）から直接、または保健福祉事務所（以下、HWC）を介して、何という名の生物で、人体や建材などに害はないか、どう対処すればよいか教えてほしいと当所に検査依頼がくる。今回、そのような検査依頼を受けて実施した平成5年度から平成14年度の10年間の検査結果について報告する。検査件数は報告書を発行した件数で、電話相談のみで終了したケースなどは含まない。

食品（原材料を含む）等への異物混入に関連して受けた検査依頼は10年間に215件（行政依頼：107件、一般依頼：108件）で、節足動物（15目）のほかネズミ、人毛などであった（表1, 2）。例年、行政依頼、一般依頼共に約10件の食品異物に関連する検査依頼があるが、異物混入事件がメディアで大きく取り上げられた12年度は59件（行政依頼：28件、一般依頼：31件）で、事件の影響をうけて急激に増加した。13年度は、一般依頼は平年並みの8件に減少したが、行政依頼は17件と多い状況が続いた。12年度以降は苦情者が企業の回答だけで納得せず、同時にHWCへ検査に持ち込む傾向が見られた。

10年間で混入件数が最も多かった節足動物はチョウ目（鱗翅目）45件（20.9%）、次に甲虫目（鞘翅目）40件（18.6%）、3番目にハエ目（双翅目）39件（18.1%）で、

これら3目で食品に関係する全依頼数の約60%を占めた。ネズミに関する検査は事業者が持ち込むケースが多く（10件）、苦情者がHWCを介して依頼してくるケースは少なかった（2件）。逆に、人毛の混入は苦情者がHWCに届け出るケースが多く（7件）、事業者が持ち込むケースは1件のみであった。

食品への異物混入は、いつ、どこで混入したかが重大な問題となる。しかし、持ち込まれた検体の状態からそれを特定するのは非常に難しい。近年では海外で製造された製品に節足動物などが混入していたケースも見られる。昆虫の仲間は世界中に広く分布している種も多く、混入時期および場所の特定はより難しくなっている。さらに、全く関連が見られないものが混入することがある。例えば、コイの歯（下咽頭歯）が豚肉製品に混入していた事件がありHWCが販売店などを調査したが、それらの接点は見つからなかった。

住環境中に発生した虫などの検査依頼は245件（行政依頼：91件、一般依頼：154件）で、節足動物（20目）とネズミやコウモリ（糞）などが見られた（表3, 4）。それらは、実害にあつて検査に持ち込まれたケースより、人体や住宅に害はないかという不安から持ち込まれたケースが多かった。またメディアの影響を受けて検査依頼が増加したケースも見られた。例えば9年度は横浜でハイロゴゲグモが見つかったことが大きく報じられ、虫に過敏になった人が増えたため依頼検査が増加した。13, 14年度も、12年度におきた食品異物混入事件の影響で、住環境中の虫に対しても過敏に反応する人が増え、さらに苦情者が行政による調査結果を事業者に求める傾向があったため事業者による依頼が特に増加した。

10年間で最も相談が多かったのは甲虫目78件（31.8%）、次にハエ目44件（18.0%）で、これら2目で住環境に関する全依頼数のほぼ半数を占めた。シロアリはほとんどの場合、有翅虫（女王アリ、雄アリ）が持ち込まれた。シロアリの有翅虫は体色が黒く、一般に持つシロアリのイメージと異なることから、アリまたはハエがたくさん窓の外で死んでいたとして相談されることが多かった。また、ミツバチや小型のハチがハエではないかと持ち込まれることも多かった。コウモリ目（糞）は、すべてネズミの糞ではないかと相談を受けたもので、軒下などにまとまって見つかるケースが多かった。

食品の異物混入に関する検査依頼も、住環境に関する検査依頼も、検体の大部分が節足動物であったことから、依頼件数は春から夏、秋にかけて増え、冬に減少する節足動物の活動にほぼ一致した変動を示した（図1, 2）。節足動物がほとんど活動しない冬期でもメイガの越冬幼虫などが見つかることがあり、食品への混入事件は一年

中発生していた。また住環境でも冬期にカメムシが持ち込まれることがあった。これは冬期に孵化するカイガラムシの仲間、他にあまり虫が活動しない時期に庭木などに小さな虫が集団で現れるために目立ち、不快感を与

えたと思われる。また、ハエ目ユスリカ科の仲間には冬期に羽化する種類があり、それらが住宅地に集まったことによって騒動になったケースもあった。

(平成15年8月14日受理)

表1 年度別行政依頼件数（食品異物）

種類	種類	年度										計
		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
節足動物	チョウ目	1	3	1	2		1	1	6	5	3	23
	甲虫目	1			1	1	2	4	7	1		17
	ハエ目			2		5	2		7	4	1	23
	ハチ目		1	1					2	2		6
	ゴキブリ目	1	1						1	2	1	6
	カメムシ目				1							1
	その他*1	1				1					1	3
脊椎動物	ネズミ目		1							1		2
	人毛				1			1	3		2	7
	その他*2	1									1	2
その他*3		1	1	4	1		1	1	1	1	11	
不明			2	1		2		1			6	
計		5	9	8	10	7	7	7	28	17	9	107

*1：クモ目，ダニ目，トンボ目；*2：魚類；*3：寄生虫，ナガミミズ目，植物，原材料，繊維

表2 年度別一般依頼件数（食品異物）

種類	種類	年度										計
		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
節足動物	チョウ目	2	4	4	3	2		2	4		1	22
	甲虫目		9	1		1	3		8		1	23
	ハエ目			1	5	2	1	2	2	2	1	16
	ハチ目		1						3			4
	ゴキブリ目				1				1		1	3
	カメムシ目			1		1			2			4
	その他*1		1		1		1		2			5
脊椎動物	ネズミ目			1		1	1	1	5	1		10
	人毛									1	1	2
	その他*2				1					1		2
その他*3	1	1		3	1	1	1	4	2		14	
不明				2	1				1		4	
計		3	16	8	16	9	7	6	31	8	4	108

*1：クモ目，カワゲラ目，シロアリ目，チャタテムシ目，バッタ目

*2：動物毛，鳥類；*3：寄生虫，植物，原材料，繊維，菌類，無機物

表3 年度別行政依頼件数（住環境）

種類	種類	年度										計
		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
節足動物	甲虫目	4	1	1	2	2		1	3	8	3	25
	ハエ目			1		4	1	1	7	2	1	17
	ハチ目		1	1		2			2	4	2	12
	チョウ目		1			1		2	1	3	2	10
	チャタテムシ目	1				1					1	3
	カメムシ目								1	3	1	5
	ダニ目	2			1	1					2	6
	シロアリ目										1	1
	クモ目					3						3
	トビムシ目										1	1
脊椎動物	その他*1		1	1			2					4
	コウモリ目				1					2		3
その他*2										1	1	
計		7	4	4	4	14	3	4	14	22	15	91

*1：アザミウマ目，ゲジ目，シミ目，ノミ目；*2：ウズムシ目

表4 年度別一般依頼件数（住環境）

種類	年度											計	
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14			
節足動物													
甲虫目	1	7	3	2	4	9	2	9	8	8	53		
ハエ目		1		2	6	4		1	5	8	27		
ハチ目					1	1	1	1	2	3	9		
チョウ目				1	2	1	1		1	3	9		
チャタテムシ目		1	1			5	1		2	1	11		
カメムシ目					2				3	1	6		
ダニ目										3	3		
シロアリ目	1	1	1						1		4		
クモ目									1		1		
トビムシ目					1					1	2		
その他*1		1				2	1			1	5		
脊椎動物													
ネズミ目	1		2	1		1	5				10		
コウモリ目						1	2		2		5		
動物毛	1									1	2		
その他*2		2									2		
不明								1		2	2		
計	4	13	7	6	16	24	14	11	27	32	154		

*1：イシムカデ目，オビヤスデ目，カゲロウ目，ミジンコ目；*2：植物

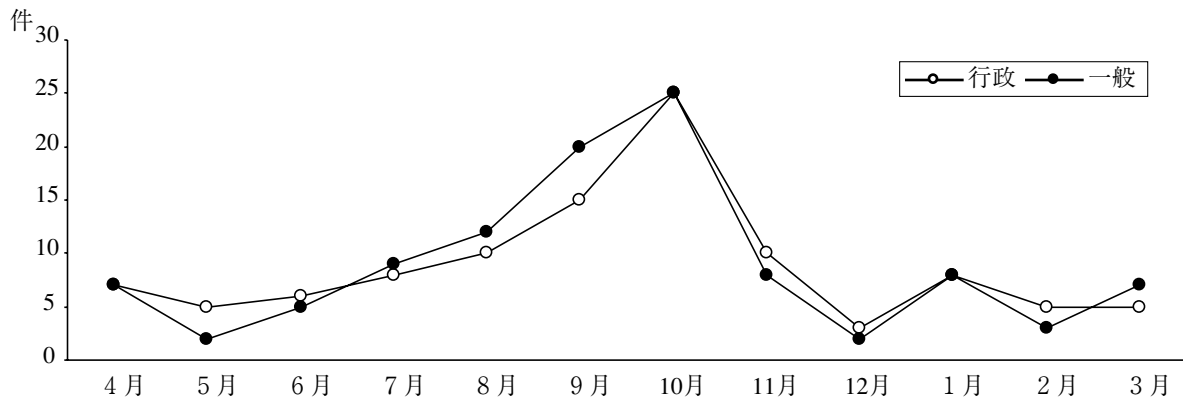


図1 平成5年度から14年度における月別依頼件数（食品異物）

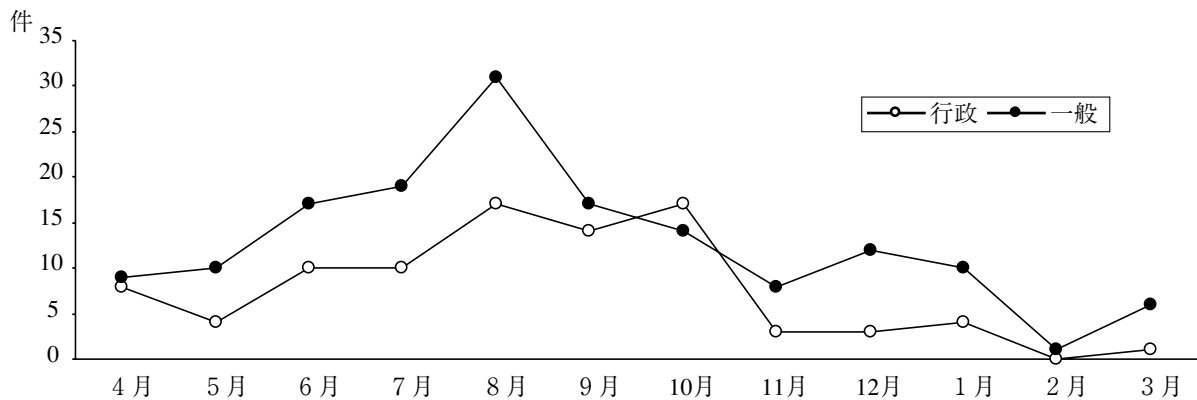


図2 平成5年度から14年度における月別依頼件数（住環境）